

6月の全校集会 いじめ防止

6月4日（月）全校朝礼において、いじめ防止の校長講話をしました。

今日は、「わたしのいもうと」という本のお話からします。この本のお話は、本当に学校で起こった出来事です。

新しい町へ引っ越し、新しい学校に通いはじめた小学校4年生の妹は、ふとしたことから、言葉がおかしいと笑われ、とびばこができないといじめられ、クラスの子たちから無視されるようになります。遠足でもひとりぼっち。やがて妹は、学校へ行かなくなり、ご飯も食わず、口もきかず、部屋にとじこもるようになります……。ある日、ひっそりと死んでしまったのです。

さて、4月からみなさんにいじめはしないようお話してきました。いじめはなくなりましたか？

悪口を言う、無視をする、人を突っつく、人のいやがることをする。これまでにしたこともないし、誰かがしているのを見たこともないと自信を持っていえる人、手を上げてください。たくさん上がってうれしいです。でも、全員ではないですね。どうしてなくなるのでしょうか。どうすれば、いじめをなくせるのでしょうか？一人一人が考えてみてください。・・・隣の人に話してみてください。発表してくれる人？

今いつてくれたこと、本当にできるかな？・・・先生は、子供の時、いじめられている子を見て、その子といじめている子の間に黙って立つのが精一杯でした。他の多くの子供は、見て見ぬふりでした。見て見ぬふりもいじめと同じです。

先生は、いじめをなくすために一生懸命考えています。でも、先生一人で、720人のみなさん全部を見てあげることは、難しい。城東小の先生全部でも、50人ほどです。先生方も一生懸命いじめをなくそうとしていますが、720人全部を見るのはやはり難しいのです。城東小から、いじめをなくせるのは、みんなの協力が必要です。みんなでどうやったらいじめがなくせるか、考えてください。

最後に、「わたしのいもうと」の本の最後の部分を読みます。

ある日、いもうとはひっそりと亡くなった。いもうとのかたわらには、「わたしをいじめたあの人たちは、もう、わたしのことをわすれてしまったでしょうね。もっと、生きたかったのに。楽しくすごしたかったのに。」という手紙が置いてあった。

もう一度言います。いじめをなくすためにみなさんで協力してください。また、今、又は今後、この中に、つらい思いをしている人がいたら、あなたは決して一人ではありません。お父さん、お母さんはもちろんのこと、先生方が味方だし、協力してくれるみんなも味方です。みんなで楽しく過ごせるためにみんなで協力しましょう。



3年生道徳の授業を校長が行いました

5月31日（木）3年2組において、校長による「特別の教科 道徳」（道徳科）の授業を行いました。

年間計画に従い、いじめについてのテーマを直接扱った「しょうたの手紙」を教材としました。転校生のしょうたくんが、友だちからいじめられ学校に来られなくなり、クラスの友だちに書いた手紙を先生がクラスで紹介して、「みんななかよし、楽しいクラス」とはどんなクラスか話し合うという内容です。

3年2組の子どもたちには、「みんななかよし、楽しいクラス」にするために自分はどんなことをするかを聞きました。次に「それが自分も含めて、全員が本当にできると思いますか？」と問うと100%できるとは答えられませんでした。そこで、なぜ、できないと思うか、どうしたらよいかを付箋にかいて、グループで解決策を話し合いました。

いじめが、いけないことが分かっているけど、なかなか、いじめがなくなる。そのことを考えもらう授業としました。

「特別の教科 道徳」（道徳科）の授業と評価について 授業

道徳科では、わかりきった道徳的に正しいことを資料から読み取る授業でなく、「しょうたの手紙」の授業のように、いじめはいけないと分かっているけど、他人に意地悪をしてしまうのは、なぜだろうか、どうすればなくせるだろうかを自分のこととして考えるような授業を目指します。

また、他の児童の発言から学ぶことも大切にします。それが、対話的学びとなり、多面的・多角的な考え方となります。

評価

道徳科の評価は、「特別の」とついているとおり、他の教科とは、大きく異なります。

※教科の評価・・・評価規準（到達目標）があり、全員が規準の達成を目指します。

※道徳科の評価・・・道徳科の目標は道徳性を養うことですが、心の内面の道徳性は、評価できません。当然、評価規準はありません。児童の学習状況及び道徳性に係る成長の様子から積極的によさを認めて文章記述します。

例えば、以下のような評価が考えられます。

- ・グループで話し合う中で、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていました。
- ・登場人物になりきって考え、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直す記述が見られました。
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていました。
- ・年間や学期を通じて、感想文や質問紙に、感想を書いていく中で、読み物教材の登場人物に共感し、自分なりに考えを深めた内容を多く書くようになりました。

また、発言や文章記述が苦手な児童であっても以下のようなよさを積極的に認めて記述します。

- ・教師や他の児童の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿が見られました。

今年度から始まった道徳科について、不明な点は、ご質問ください。